

2011年度「凜々子賞」 受賞校の紹介

カゴメは、これからも子どもたちにとって「凜々子」がよりよい栽培学習の体験機会となるよう、当活動の充実を図る目的で、毎年「凜々子栽培レポート」を募集しています。

先生方から届くレポートには、カゴメが知り得なかった子どもたちの数多くの発見と成長、また、ご指導にあられた先生方のお知恵や工夫など、たくさんの貴重な情報が含まれています。これらはカゴメが当活動を続ける上での励みとなり、また、全参加校と共有することで、より多くの子どもたちに充実した栽培機会を提供できると考えています。

2011年度は応募総数202通の中から、次に紹介する5校を優秀実践事例「凜々子賞」として選出いたしました。各校・園の詳しい取組み内容は、ウェブサイト (<http://www.kagome.co.jp/tomato-nae/report>) で公開しています。貴校・貴園での栽培計画のご参考に、ぜひご一読ください。

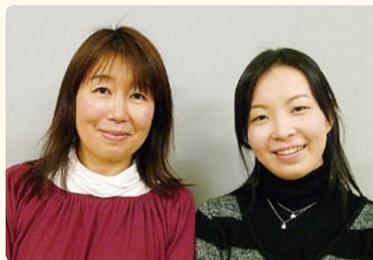
活動ハイライト



大型モニターでウェブサイトの動画を見たことで、子どもたちの栽培やトマトへの興味が高まった。



本誌に沿ってわき芽を育てて、発根の様子を観察。発根した苗は希望者が家に持ち帰り育てた。



奥 千明先生 / 竹村 晴香先生

本誌とウェブサイトをフル活用
アサガオ鉢で1人
20個もの収穫！

昨年度2学年担任に就くと、引き続き「凜々子」の苗を申し込んでいることを聞きました。担任は二人とも「凜々子」栽培初心者だったので、栽培ガイドブックを見ながら活動を進めていきました。

本校はインターネット環境が整っているので、ウェブサイトのクイズで栽培の見通しを立てたり、動画を見ながら授業をしたりと、栽培の意欲付けに役立てました。また、ガイドブックに

載っていたわき芽を使って、発根の様子を観察したり、収穫したトマトを冷凍保存して簡単な調理をしたりと、限られた時間の中で、他校の実践例なども参考にしながら、国語科「かんさつ名人になろう」の単元学習にも「凜々子」を活用しました。

ガイドブックのとおり育てることで、アサガオの鉢でも1人20個くらいの収穫でき、みんなで調理して食べる活動ができて良かったです。

京都府京田辺市立
田辺東小学校
2年生 / 46名

テーマ

そだてよう・
つたえよう
わたしたちの
りりこ

活動のきっかけ

養護教諭から「凜々子」の苗を紹介され、2年生生活科の栽培活動に活用することにした。

活動のねらい

- 興味・関心と愛情を持ってトマトを育て、収穫する。
- 国語科「かんさつ名人になろう」と関連し、丁寧に観察し、そのようすが相手に伝わるよう工夫して書く。
- 友だちと協力し、収穫したトマトを調理する。

活動ハイライト



トマトがたくさん残ったので、ドライトマト作りに取り組んだ。スパゲティやクッキーづくりにも大活躍。



「凧々子」を栽培した2年生と、ドライトマトに興味を示していた1年生に、ドライトマト入りクッキーのプレゼントと手作り絵本の読み聞かせを行った。



高尾 明子先生／天野 吉之先生

トマトを乾燥させて
ドライトマトに！
子どもも教員も
加工調理する
楽しさを体験

「凧々子」の名前は近隣校から聞いていましたが、本校で栽培するのは今年が初めてでした。想像以上に丈が伸びないので心配しましたが、夏休み明けにみんなで収穫し、保存しておいたトマトと合わせると約30kgにもなりました。早速トマトソースを作りましたが調理しきれず、1/3程度残ってしまったので、連日の猛暑と梅干づくりにヒントを得て、ドライトマトにしてみました。算数で分数の学習をしたので、トマトを1/8に切ってザルに並べ、日当たりの良い所に置いてみると、旨みたっぷりドライトマトが完成。簡単にできて、かさも減り、さまざま料理に使えるドライトマトはとても便利でした。一つの食材の利用方法をいろいろ考え、工夫して食べる活動はとても楽しいものでした。子どもたちも教員も食への関心が高まり、食材を工夫することの楽しさと大切さを学びました。

活動ハイライト



全員で凍った凧々子の皮をむいて、ジャムを作り保存。カフェでこのジャムを使ったパンを提供した。



今年度育てた野菜の栄養やレシピなどを、12ヶ月分のカレンダー形式で模造紙にまとめ、カフェで発表した。



湯田 祥子先生

真っ赤な
トマトを育てて、
地域に笑顔をと
り戻そう！

この取組みは、子どもたちの「福島はよいところ、福島野菜は安全・安心だ」ということをみんなに知ってほしい」という願いや思いから、活動がどんどん広がっていききました。子どもたちが自ら計画し、実行し、成功させ、たくさんの人に喜んでもらったという達成感と満足感が、子どもたちに大きな自信を与えました。同時に、特別支援学級も一緒に楽しく活動することができ、全員が互いのよさを認め合うことができました。小さい頃に食べたものは、大人になっても思い出すのだと思います。子どもたちは、自分たちで育て、調理し、おいしいと感じたこの「凧々子」の味を、きっと大人になっても思い出すことでしょう。今回の受賞によって、子どもたちの思いや願いを、全国の先生方にお伝えする機会をいただいたことに、心から感謝しています。

福井県鯖江市
進徳小学校
5年生 / 45名

テーマ

工夫して食べる
喜びを感じ、
食について
考えよう

活動のきっかけ

子どもの食への意欲・関心を高めるため、食に関する学習計画に「凧々子」を採用。

活動のねらい

- 栽培と調理を通して、地産地消の大切さを実感する。
- 食品の栄養的な特徴や食品の組み合わせに関心を持つ。
- 食材を工夫して調理することで、食べる喜びを感じ、食の恵みに感謝する気持ちを育てる。

福島県南会津郡下郷町立
江川小学校
4・5年生 / 15名

テーマ

ふくしまニッコリ
カフェを開き、
福島の元気を
復活させっぺ！

活動のきっかけ

風評被害に負けず、自分たちで育てた野菜を使った料理で地域を元気づけようと考えて。

活動のねらい

- 自分で育てた野菜を使った料理を通して地産地消のよさや安全性を実感する。
- 自分たちで作った料理でもてなす喜びを味わう。
- 育てた野菜について調べたこと、活動のようすをまとめ、発表することで、達成感を味わう。

活動ハイライト



2年生の1人1鉢の栽培を手伝う。用意した栄養たっぷりの土を鉢に入れてあげたり、苗の植え方を教えたりした。



他校との交流会で「凜々子」を紹介。一緒に作業することで緊張がほぐれ、会話ははずんだ。

活動ハイライト



子どもたちが野菜や食べ物に興味をもつようになり、野菜への愛情が芽生え、食べ物の命を大切にすることが育った。



生活発表会では収穫やクッキングの喜びを、歌やオペレッタで表現。保護者も一緒に栽培過程をふり振り返りながら、子どもたちの成長をみんなで喜ぶことができた。



垣地 広之先生 / 齋藤 文子先生

自分の手で育てた「凜々子」が、子どもたちの自信につながった！

本校での「凜々子」栽培は3年目で、試行錯誤の結果、今年は大収穫となりました。同様に、子どもたちも大きく成長し、苦手なトマトも自分で作ったものも大事に味わったり、給食で苦手な野菜が出てても食べるようになったり、トマトソースを玉ねぎのみじん切りから1人で作ることができるようになった児童もいます。交流会でお客さまを迎えたり、みなさんに見てもらった機会を多く設けたりしたことで、子どもたちの大きな自信を得ることができたのだと思います。

こと、子どものやる気も一段とわきました。担任が言わなくても、自分の手で作業したことは自信をもって説明できました。交流をした蘇我小学校のお友達も、ちょうど6人だったので、すぐに顔を覚えて仲良くなり、深い交流ができました。特別支援学級では、短い時間で全てを達成することはできませんが、時間をかけて経験を積んだことで、子どもたちも大きな自信を得ることができたのだと思います。

千葉県千葉市立
生浜小学校
特別支援学級
2～5年生 / 6名

テーマ

「凜々子」で友達

特別支援学級間の交流

活動のきっかけ

多くの人に共通し、興味・関心の高い「食」をテーマに、他校との交流を深めようと考えて。

活動のねらい

- 根気強く栽培し、観察する。
- 調理体験を通して、自然の恵みに感謝する。
- 「凜々子」を通して他校と交流し、そのよさを広める。
- 活動を通して、子どもの自立と社会参加を促す。

広島県三原市立
幸崎保育所
0～5歳児 / 25名

テーマ

親子・地域に広がるトマトの輪

活動のきっかけ

苗がたくさん届いたので、1人1本ずつ親子で育て、食育につなげようと考えて。

活動のねらい

- 自分の苗を育てることで、愛情や思いやりを持つ。
- 栽培、収穫、調理体験を通じて、食への興味・関心を育み、命の大切さを感じ、生きる力につなげる。
- 親子で育てることでコミュニケーションを深めるとともに、家庭での食への意識向上につなげる。
- 地域に保育所での食育の取組みを伝える。



福島 弘子先生

1人1本ずつ育て、0歳児も調理に参加
子どもたちの成長を実感

毎年さまざまな菜園活動に取組んでいましたが、今年「凜々子」の苗をたくさんいただいたので、子どもたちは保護者と一緒に、職員も全員が1人1本ずつ育てることにしました。「自分の苗」を毎日世話することで、子どもも大人も栽培意欲が高まったのだと思います。10月の保育参観日や12月の生活発表会でも「凜々子」をテーマにした活動を行い、保護者と一緒に楽しみながら、子どもたちの成長を喜びました。

「凜々子」は調理に向いていたので、0歳児からさまざまなクッキング活動を行いました。自分で育てたトマトだからこそ、トマトが苦手な子どもも喜んで食べることができ、他の野菜も食べてみようとする姿も見られました。トマトの力は偉大です。栽培・収穫・調理、食べるという一連の体験を通して、元氣と笑顔、お腹もいっぱいになる機会をいただいたことに感謝しています。